



## シマフクロウを育む国有林

### 計画保全部計画課

#### 【シマフクロウって?】

シマフクロウは元々、北海道全域に加え、樺太や千島列島南部に生息していました。しかし、その後、営巣のための広葉樹の巨木が減少し、採餌環境も悪化していったことから、年々その生息数が減少していきました。このため、現在、北海道内ではシマフクロウは、道東を中心とした一部の地域にしか生息していません。

英語名でFish owl（魚ふくろう）と名付けられているとおり、シマフクロウは主として魚を捕食しています。このため、シマフクロウが生息していくためには、淡水魚が多く生育できるような河川（溪流）環境が必要になっています。

シマフクロウが営巣するためには、直径100cm以上の広葉樹の巨木の洞が必要です。また、子育てにも大量の淡水魚の餌が必要となってきます。このような条件を満たした生息環境の減少が生息数を減らしてきた主な要因です。

その他、カメラ撮影をはじめとする人為由来のストレスや、ヒナの時期にエゾクロテンに襲われることも、生息数が回復しにくい要因として挙げられます。

#### 【北海道森林管理局の取組】

北海道森林管理局は1993年から、有識者や関係機関と連携しながら、国有林でのシマフクロウの保護増殖に取り組んでいます。具体的には、シマフクロウが生息する天然林の保護や人工林の間伐を進めたり、魚類の移動が容易になるよう河川（溪流）工作物を改良したりすることで、採餌環境の改善に努めています。また、将来的に営巣木とな

るような広葉樹の保全・育成に努めるとともに、巣箱の設置を進めることで、営巣環境の創出に取り組んでいます。

#### 【シマフクロウに配慮した森林施業】

シマフクロウの生息する国有林において、その生息に配慮した森林施業に取り組んでいます。



例えば、林道沿いの立木を保残する（保残帯）ことによって、シマフクロウが林道に近づかないようにして、車両との衝突を回避するよう工夫しています。

#### 【給餌池の設置】



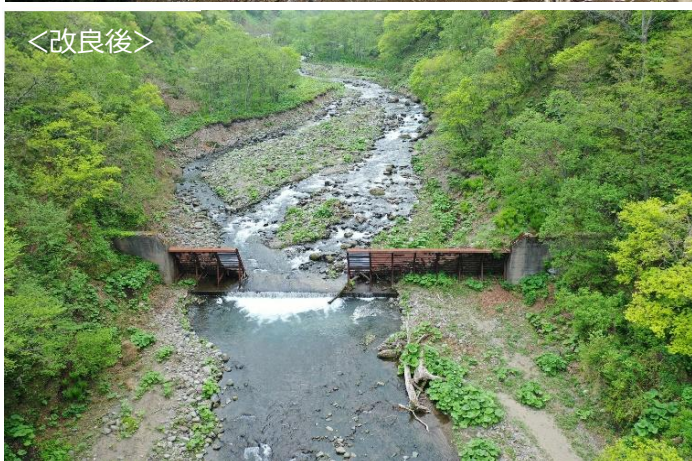
シマフクロウに配慮した森林施業を模索する中で、生息する周辺環境も併せて整備する必要があることから、専門家の意見を聴いた上で、給餌池の設置に取り組んでいます。上流にあるダムの水量調節により冬季の河川が凍結しやすい環境にあった箇所に、凍結しない給餌池を設置したことにより、シマフクロウの採餌環境を創出する取組を進めています。

#### 【サケ科魚類の遡上環境の整備】

＜改良前＞



＜改良後＞



サケ科魚類の自由な移動ができるよう河川工作物を改良し、遡上環境を整備しています。写真のダムの改良は、アクセス道路がなく重機を入れることができないため、職員も参加し、人力で徐々に切り下げました。こうした取組を通じて、シマフクロウの採餌環境が改善されていくことが期待されます。

#### 【巣箱設置】

次の写真は、シマフクロウの巣箱を職員が設置する様子です。シマフクロウは天然木の太い樹洞に巣に利用します。このような大きさに木が成長するまでの間、巣箱が必要となってくるため、国有林でも設置場所を提供しています。巣箱の設置

は、専門家の意見を聴いた上で取り組んでいます。



写真提供：環境省 北海道地方環境事務所

#### 【おわりに】

皆さんに広く国有林の取組を知っていただくため、令和6年秋に「シマフクロウシンポジウム」や「シマフクロウシンポジウムパネル展」を開催しました。

現在、北海道内には概ね100つがいのシマフクロウが生息しています。今後とも、シマフクロウが生息する豊かな森林生態系づくりに取り組んでいきます。



写真提供：環境省 北海道地方環境事務所